

センターだより

平成30年3月1日 No.61
東濃西部少年センター TEL23-3455 FAX26-8813

所 長 加 納 昭 仁
指導主任 坂 井 正 昭
事 務 柴 田 弥 生

「高校生による交通安全推進大会」に参加して

昨年の12月8日(金)に土岐自動車学校を会場にして、平成29年度多治見地区「高校生による交通安全推進大会」が行われました。多治見地区=多治見市・土岐市・瑞浪市にある県立高等学校・特別支援学校、私立高等学校からそれぞれの代表者が集まって開催されました。東濃西部少年センターからは、アドバイザーの一人として参加してきました。この大会の実施にあたっては、高校生の実行委員会が事前に何回か会合をもって準備して



きました。まさに、「高校生による・・・」です。全体会の進行はもちろん、開会宣言・趣旨説明と有意義な会になるようにという明確な意思表示がありました。

この後、土岐自動車学校の先生の指導のもと、教習所のコースを使って自転車の安全な乗り方、そして道路交通法違反となる危険な乗り方について実地での指導を受けました。とても寒い日でしたが、緊張感をもって受講していました。

実地指導の後、教習所内にもどってA・Bの二つのグループに分かれてグループ意見交流を行いました。テーマは、交通事故に遭いそうになったことで、Aグループは自転車通学、Bグループは自転車通学以外を通して体験したことをもとに、交通事故につながったかもしれない要因について互いに考えを出し合う時間となりました。アドバイザーである私もこの意見交流に参加し、ちょっとした油断やスキで自分の命の危険につながることや加害者にもなり得ることを、各体験を語り合うことによって確認することができました。

自転車での安全確認



道路交通法違反 【傘をさして運転・二人乗り】



高校生による交通安全推進アピール採択

A・Bグループでの意見交流後、全体でのまとめを行いました。参加者は学校の代表であり、それぞれの学校で他の生徒に伝達する責務があることを確認し、下記のアピールを力強く採択しました。

慣れている

普段の道こそ

気をつけて

～危険定休日はありません～

参加者

- ・生徒実行委員 5名
- ・各校代表 10校 20名
- ・土岐自動車学校 副校長
- ・多治見警察署 交通一課総務課長
- ・交通安全協会事務局長 ・土岐地区女性部長
- ・東濃教育事務所教育支援課 学校地域連携係
- ・東濃西部少年センター所長
- ・高等学校 担当校長及び引率教員等 12名



生徒の感想（一部紹介）

- ・交通事故の原因は自分自身ということがわかりました。自分自身の交通事故に対する意識について改めて見つめ直すことのできたので良かったです。ありがとうございました。
- ・今日の体験を通して、自分が気づいていても相手が気づいていなかったらぶつかってしまうので、常にぶつかるかもしれないという危険をもって「～かもしれない」に意識したいと改めて思った。慣れている道だからこそ油断しないようにするという事に気づかされた。
- ・一人ひとりがしっかり取り組み、とてもいい会になったグループ交流では全員が自分の意見をしっかりと持っていてよかった。ただ話すだけでなく体験をしているいろいろな事を感じることができた。

先生の感想（一部紹介）

- ・4、5年ぶりに引率として参加したが、体験学習、グループ意見交流の質が上がっていたと感じた。実行委員の準備の段階から時間をかけてきた成果なのかな。
- ・実行委員がとてもしっかり進行していてすばらしかった。事前に考えをまとめてあったことが、意見交流の活発化につながっていた。準備がしっかりできていた。オブザーバーが少なかったため、生徒たちの発言を多くみられよかった。
- ・交通事故に遭わないために、高校生がいろいろと考え話し合い、意見を言うという場が大変大切であり、もっと多く設けたらよい。大変よい内容だった。
- ・実体験に基づいた意見交換により自らの命をどう守るかを考えるよい機会になった。

平成29年度 高校生による啓発活動のまとめ

今年度も昨年度に引き続き東濃西部三市にある県立・私立の高等学校10校が、年間2回JR駅付近で啓発活動を実施してきました。昨年度に引き続いて参加する生徒も何人かいましたが、多くは初めて参加する生徒達でした。もじもじしてすぐに行動できない生徒もいましたが、多くの生徒は元気な声で「どうぞ！使ってください」「よろしくお願いします」「よろしかったら、どうぞ」など、駅を利用する人に一歩踏み出して啓発グッズを配っていました。引率の先生からは、生徒にとって大変貴重な体験になっていると好意的な言葉をいただきました。

| 高等学校 | 第1回 | 第2回 | 第1回参加者数 | | | 第2回参加者数 | | |
|-------|--------|--------|---------|----|-----|---------|----|-----|
| | | | 生徒 | 先生 | PTA | 生徒 | 先生 | PTA |
| 多治見 | 11月9日 | 2月8日 | 10 | 1 | | 12 | 2 | |
| 多治見北 | 7月14日 | 2月16日 | 10 | 4 | 1 | 11 | 3 | |
| 多治見工業 | 11月7日 | 1月24日 | 23 | 2 | | 22 | 2 | |
| 多治見西 | 10月12日 | 1月11日 | 5 | 2 | | 10 | 2 | |
| 瑞浪 | 9月8日 | 11月17日 | 11 | 4 | | 10 | 2 | |
| 中京 | 9月19日 | 12月13日 | 8 | 1 | | 10 | 1 | |
| 麗澤瑞浪 | 6月28日 | 11月15日 | 4 | 1 | | 7 | 1 | |
| 土岐紅陵 | 7月12日 | 12月22日 | 7 | 2 | | 6 | 1 | |
| 土岐商業 | 9月14日 | 12月7日 | 13 | 1 | | 11 | 1 | |
| 東濃カワイ | 6月22日 | 10月26日 | 6 | 1 | | 7 | 2 | |
| | | 計 | 97 | 19 | 1 | 106 | 17 | 0 |

これ以外に、麗澤瑞浪中学（7名）・高校（3名）が、2月23日に自主的に啓発活動を行いました。

| 総計 | |
|-----|-----|
| 生徒 | 203 |
| 先生 | 36 |
| PTA | 1 |

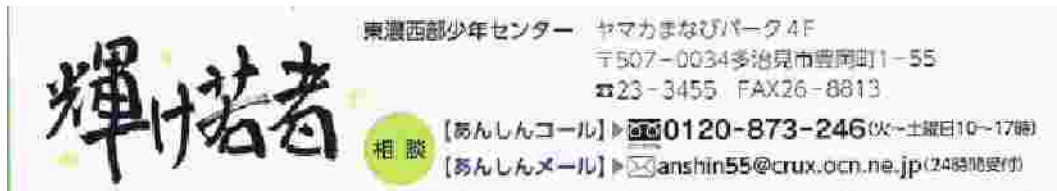


今回、この活動にはじめて参加しました。多治見駅の改札前で、カイロを配るとともに、自転車の事故防止を呼びかけました。寒い中での活動でしたが、カイロを手渡すときに「ありがとうございました」「ごくろうさまです」と声を掛けていただき、地域の人たちと交流が出来て寒さも吹き飛ばくらい温かい気持ちになりました。私たちは高校生ボランティアですが、少しでも地域社会に貢献できればいいなと思いました。この活動をきっかけに、今後も人の役に立てるボランティア活動に積極的に参加していきたいと思いました。



今回、初めて街頭啓発活動に参加しました。街の人に交通安全を呼びかけるとともに、カイロを配布しました。私自身、人見知りのため声を掛けるのをとても躊躇しました。勇気を出して声を掛け、カイロを受け取ってもらえるとすごく嬉しくて、次も頑張って声を掛けようと思えました。全て配り終えたときは達成感がありました。今回の活動を通して、私も交通安全に気をつけようと改めて感じました。また、このような機会があれば参加したいと思いました。

先日、多治見駅で街頭啓発活動に参加しました。「配るカイロは受け取ってもらえるだろうか」という不安もあり、はじめは積極的にできませんでしたが、徐々に慣れ、笑顔でカイロをすべて配り終えることができました。とても達成感がありました。このような活動は自分から進んでしないとできないことだったので、貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。今後の人生にも活かしていければいいと思いました。



現在、少年センターの相談活動は、「あんしんコール」「あんしんメール」を相談窓口として実施しています。若者のコミュニケーション手段がSNSに移行している状況を踏まえたとき、SNSを活用した相談活動が可能なかどうか、全国的にはどうなっているのかと調べてみました。

長野県教育委員会がLINE（株）と連携協定を締結して、SNSによる相談を試行的に行ったということがありました。

・・・SNSによる相談の試行『ひとりで悩まないで@長野』の成果と課題・・・

目的

子どものコミュニケーション手段がSNSに移行している状況を踏まえ、本県のいじめ対策や未成年者の自殺防止に向け、悩みを抱える生徒たちが気軽に相談できる体制を確立するため、SNSによる相談事業を試行した。

事業概要

試行期間：平成29年9月10日（日）～23日（土）17：00～21：00
 対象者：中学生、高校生等
 相談体制：相談員10名（10回線）を配置して相談に対応
 （外部の専門機関に業務を委託）

事業の結果（1）相談件数等

登録カード配布対象者数 = 約12万人
 うち登録者数累計（9/23） = 3,817人
 相談アクセス数（時間内） = 1,579人
 相談対応実績【2週間】 = 547件

相談件数が大幅に増加！！
 平成28年度子どもからの年間相談件数
 259件（学校生活相談センター）

事業の結果（2）相談内容

| | | H28電話相談 |
|--------------------|-------------------|---------------|
| いじめに関すること | 45件（9.8%） | 28.2% |
| 不登校に関すること | 3件（0.7%） | 3.9% |
| 交友関係・性格の悩みに関すること | 119件（26.0%） | 36.3% |
| 学校・教員の対応に関すること | 45件（9.8%） | 15.8% |
| 家族に関すること | 27件（5.9%） | 8.5% |
| その他（学業、恋愛に関することなど） | 219件（47.8%） | 7.3% |
| 小計 | 458件（100%） | （100%） |
| ひやかし等 | 89件 | |
| 合計 | 547件 | |

相談活動とSNS その2

4ページに記載した長野県教育委員会の事業内容やその結果を見てみると、たった2週間で平成28年度の年間電話相談数の倍以上の数となっています。1日平均39件、1時間あたり約10件の相談アクセスがあったこととなります。圧倒的に相談件数が多く、若者のコミュニケーション手段がSNSに移行していることが分かります。

しかし、相談内容を見てみると、平成28年度の電話相談と比べ、いじめ・不登校に関する相談の割合が少なくなっています。また、その他の内容（学業・恋愛の悩み等）の数が多く相談内容が多様化しています。一番気になるのは、ひやかし等が89件もあることです。

このような状況から、若者に身近な（気軽にアクセスできる）相談ツールとして認識されたのではないのでしょうか。

さて、長野県教育委員会は今回の試行事業において、「成果・事業の効果」そして「課題」を次のようにまとめています。



成果・事業の効果

潜在した相談へのニーズの発掘

「ひとりで悩む」子どもたちに潜んでいた『相談したい気持ち』を掘り起こした。

悩みの「芽」を早期に摘み取り

子どもの悩みを解決可能な時期に解消し、深刻な事態に陥ることを回避。

課題

SNSにおける応対手法の開発が必要

【電話・面談相談における相談の役割： 傾聴 共感・寄り添い 助言】

SNSにおいては、「共感・寄り添い」を伝えることが難しい。

電話への相談に切り替えることのできる制度設計が必要

自殺念慮の表明等に対応する場合、SNSによるコミュニケーションには限界があり、電話による通話に切り替えて相談を継続する仕組みの構築が必要

コストが割高

電話相談に比べて、コストが割高である。

【コスト高の要因】

- ・相談(スマホ)・回答(パソコン)の入力時間が必要
- ・相談数の増加に応じて、相談員の増員が必要

LINEとトランスコスモスは12月6日、いじめなどに関する若者からの相談をSNSで受け付ける「SNSカウンセリング」の質の向上や普及などを目指した新組織「全国SNSカウンセリング協議会」を共同で設立したと発表した。協議会では、SNS関連事業者や電話相談事業者、カウンセラー、研究機関、教員らが幅広く連携し、SNSカウンセリングの手法の開発や研究、相談員のスキル向上の研修、高品質なSNS相談の普及などを目的に活動する。

SNSで相談を受け付けることは、早期に悩みの「芽」を摘むことに効果があり、今後の方向性を示唆していると言えます。しかし、長野県教育委員会の試行事業を見ても、現段階では有効な相談手法がまだまだ手探り状況にあり、検討課題が沢山ある状況だと思えます。今後の動向に注目していきたいと思えます。

平成30年度少年指導員の推薦について

平成30年度の「声かけ活動」に向けて、少年指導員を各種団体等から推薦していただく時期となってきました。現在、平成29年度の少年指導員の内訳は、下表にある199名の方々にご尽力いただいているところです。

| | 多治見市 | 瑞浪市 | 土岐市 | 合計 |
|---------------|------|-----|-----|-----|
| 民生児童委員・主任児童委員 | 8 | 2 | 4 | 14 |
| 保護司会 | 6 | 0 | 2 | 8 |
| 市民会議・町民会議・育成会 | 25 | 8 | 9 | 42 |
| 更生保護女性会 | 3 | 7 | 2 | 12 |
| 少年センター推薦 | 9 | 2 | 5 | 16 |
| 小学校教員 | 13 | 2 | 8 | 23 |
| 小学校PTA | 13 | 7 | 8 | 28 |
| 中学校教員 | 8 | 5 | 6 | 19 |
| 中学校PTA | 8 | 3 | 5 | 16 |
| 高等学校教員 | 4 | 3 | 4 | 11 |
| 高等学校PTA | 4 | 3 | 3 | 10 |
| 合計 | 101 | 42 | 56 | 199 |

各種団体等からの推薦については、各市のこれまでの経緯の違いにより一律とはなっていません。

各種団体のご理解・ご協力のもと、平成29年度もMAX200名に近い199名の方々を推薦いただいているところです。青少年の健全育成に向けた環境づくりに各方面からご尽力いただいています。ありがとうございます。

しかし、少年指導員を推薦していただくにあたって、問題がないわけではありません。さまざまな課題を抱えているのが現状です。

- ・働き方改革が叫ばれる中、教員の長時間労働の問題。
- ・小規模校における校務の重複による問題。
- ・学校の統廃合による学校数の減少。濃南小学校、瑞浪南中学校、間もなく開校の瑞浪北中学校。
- ・各種団体の構成員の高齢化。
- ・学校PTA役員における充職的推薦。働き盛り年齢で、「声かけ活動」になかなか参加できない。
- ・町内会、区などの役職が特定の人に集中していて、少年指導員の受け手がなかなかみつからない。

このように、様々な課題を抱えながらも「声かけ活動」の趣旨をご理解いただき、青少年の健全育成に向けて今後ともご支援よろしくお願ひします。今後は、MAX200名に満たない状況が出ることはあると思いますが、それぞれの地域で、より多くの大人が子ども・若者に声をかけ、健やかに育っていく環境づくりに努めるということは、何も変わりありません。若者たちの将来に輝きを求めてがんばっていきたいと思います。

お願い：PTAからの推薦につきましては、仕事のこともありますので充職的に役員の方を推薦するのではなく、PTA会員全体の中からご検討いただくと幸いです。

